

国際シンポジウム「アジア・太平洋地域の潜在力と世界的貢献の可能性」 ——人的資源の視点から——

標記のセミナーが日本大学創立 100 周年記念事業の一環として平成元年11月20日（月）～23日（木）の4日間にわたって市ヶ谷の日本大学会館大講堂で行われた。主催は日本大学（実行委員長：小川直宏経済学部教授・人口研究所研究部長）で、後援は経済企画庁、アジア開発銀行、ILO、ESCAP、東西センター人口研究所、国際人口学会の諸機関で、日本経済新聞社が協賛した。副題、実行委員長、後援機関から伺われる通り、人口に関連の深いシンポジウムで海外からの招へい者の半数以上を人口学者ないし人口関係の業績のある経済学者が占めた。実際、国際人口学会の会長の Massimo Livi Bacci 教授が参加し、経済人口学研究委員長の Gavin Jones 博士が開会の祝辞を述べた。また、七つのセッションのうちの半数以上が人口関係の内容を含むものであった。

初日の午前には日本大学総長代理による開会の辞と経済企画庁と国際人口学会の代表による祝辞が述べられた後、「1980年代におけるアジア・太平洋地域経済成長の動向と将来展望」と題された公開講演会が黒田俊夫日本大学人口研究所名誉所長の司会の下で行われ、以下の三報告がなされた。

“Demographic Change and Human Resource Development in the Asian and Pacific Region :
Recent Trends and Future Prospects”

by Naohiro Ogawa, Deputy Director of the Nihon University Population Research
Institute

“Recent Economic Performance in Developing Asia and the Pacific”

by Hak-Chung Choo, Chief Economist, Asian Development Bank

“Contributions of the Labor Force to Asia's Recent Economic Growth :
A Comparative Analysis”

by Eddy Lee, Chief of the Employment and Population Branch, International Labour
Office

同日の午後には「アジア経済のパフォーマンスの特徴」と題された第一セッションが行われ、以下の二報告がなされた。

“Human Capital Deepening, Inequality, and Demographic Events along the Asian Pacific Rim”
by Jeffrey Williamson

“Thailand's Economic Dynamism : Human Resource Contributions and Constraints”
by Chalongsob Sussangkarn and Yongyuth Chalamwong

二日目の午前には「人的資源開発における教育」と題された第二セッションが行われ、以下の三報告がなされた。

“Demographic Change, Household Resources, and Schooling Decisions”
by Andrew Mason

“Dilemmas in Expanding Education for Faster Economic Growth : Indonesia, Malaysia
and Thailand”
by Gavin Jones

“Education, Earnings and the Self-Employment Choice : A Study of the Male Chinese
in Peninsular Malaysia”
by David Demery and Andrew Chesher

同日の午後には「人的資源開発における労働力」と題された第三セッションが行われ、以下の二報告がなされた。

“Economic Growth Performance of Indonesia, the Philippines, and Thailand :
The Human Resource Dimension”
by Ernesto Pernia

“The Feminization of Labour in the Asian Pacific Rim Countries :
From Contributing to Economic Dynamism to Bearing the Brunt of Structural Adjustments”
by Lin Lean Lim

三日目の午前には「人的資源開発における健康」と題された第四セッションが行われ、以下の二報告がなされた。

“Population, Human Resource Formation and Economic Growth in the Philippines,
Thailand and the Republic of Korea”
by Alejandro Herrin

“Socioeconomic Development, Child Health Care, and Recent Infant Mortality in Thailand”
by Noriko Tsuya, Naohiro Ogawa, Ehn Hyun Choe, Napaporn Chayovan,
and Siriwan Siriboon

同日の午後には「人的資源開発のための政治と政策」と題された第五セッションが行われ、以下の三報告がなされた。

“Politics and Policy for Development in Selected Asian Countries”
by Kwang-Woong Kim

“The Philippine Development Plan, Population Program and Poverty Alleviation”
by Wilfredo G. Nuqui

“Changing Support Systems for the Elderly in Selected Asian Countries”
by Naohiro Ogawa, Noriko Tsuya, Ehn Hyun Choe, and Lin Lean Lim

最終日の午前には「人的資源開発——日本の経験——」と題された第六セッションが行われ、以下の二報告がなされた。

“Population Dynamics and Economic Development in Japan”
by Yoichi Okazaki

“Industrial Development and Manpower Problems in Japan”
by Kenichi Furuya

引き続いて「アジア・太平洋諸国の経済的ダイナミズムの評価」と題された第七セッションが行われ、以下の二報告がなされた。

“Human Investment and Population-Related Aspects of Economic Growth in East Asia :
A European Perspective”
by Jean-Claude Chesnais (read by Massimo Livi Bacci)

“Sources of Economic Growth in East and Southeast Asia : A South Asian View”
by Pravin Visaria

同日の午後には「アジア・太平洋諸国の経済的ダイナミズムの問題と展望——政策立案者の視点」と題されたパネル討論会が Burnham O. Campbell 教授の司会の下になされ、Kosit Panpiemras, Ehn Hyun Choe, Wilfredo G. Nuqui, Sarawooth Paitoonpong の四氏が活発な議論を行った。最後に Warren Robinson 教授による総括が行われた後、日本大学代表により閉会の辞が述べられて閉幕した。

一部しか出席できなかったが、密度の高い議論が行われていることが伺われた。小川教授が韓国の TFR が日本より低くなり、出生抑制政策から出生促進政策へと方向転換する可能性を指摘されたのが印象に残った。また、韓国保健人口研究院の崔仁鉉博士も同様のことを筆者に個人的に述べられた。日本、韓国を含めたアジア・太平洋諸国での出生促進政策に関する同様のシンポジウムが開かれる日は意外に近いかもしれない。

(小島 宏記)